

晃の園だより

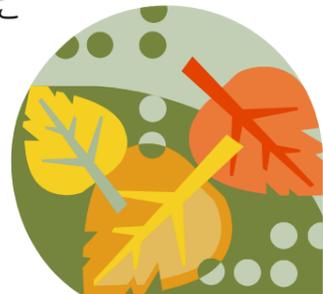
平成24年10月発行



最初は朝夕の涼しさから、やがて日中に吹く風にも秋の到来を肌で感じることができるようになりました。冬が来るまでの束の間、身体も心もやすらぐ季節の到来です。

そんな快適な季節に、晃の園では敬老会と秋祭りを開催しました。ご家族や地域の方々にも多数参加いただき、普段とはまた違ったふれあいも沢山できました。人と人とがふれあう時、そこでは言葉や物だけでなく気持ちもやりとりされます。見た目は一方的な接し方に見えたとしても、見えないところで受け取っているものが必ずある、それが人と人とのふれあいなのだと思います。

敬老の日に入居者様に記念品を渡す職員さん。この時彼女は何を受け取ったでしょう。



普段の生活の中で

特別なイベントでない普段の生活の風景です。こういった普段の生活の中での入居者様の笑顔こそがととても大事なものに思えます。



皆で協力してのプリン作りを楽しみました。トッピングも盛り沢山。バナナにリンゴに桃やブドウ…たっぷり乗せて完成です。

楽しかったから、美味しくできたからこそその笑顔です。



夕食後の落ち着いた時間。ふと目をやると、入居者様お二人が並んで座っていらっしゃいました。思わず微笑んでしまうような光景にカメラを向けると、素敵な笑顔をかえしてくださいました。



廊下にある小さな本棚の前で本を選ぶ入居者様。普段の生活で、テレビの前にいる時間が比較的長いこの入居者様にとって、この小さな本棚の存在は決して小さくない存在であるように思えます。

■ 福祉用具の導入を開始してから一年とふた月経ちました

リフトなどの福祉用具の完全導入が完了しているユニットの職員さんが、十月の異動でこれからリフトを導入するユニットへ移りました。その職員さんいわく『久しぶりに人力で移乗介助をしたら、もう大変で大変で』とのこと。奇しくもその職員さんは、職員側のリフトの恩恵を改めて実感することになったわけです。でもそんな感想が聞かれるのも、一部とはいえ導入が完了している部署があるからこそでもあります。晃の園でリフトの導入が開始されてから一年とふた月。導入の数だけでなく、成果も着実に増えています。

《編集長のひとりごと》

人に対等に接するということがどういうことなのか。対等と認めた相手に発する言葉や行動とはどうあるべきなのか。『同情する』こと自体、すでに対等でなくなっている…。これは晃の園の理念にもある『尊厳』にも深く関わってくることです。公開中の映画『最強のふたり』を見て、そんなことを考えました。話の展開の中で、型どおりの介護を受ける主人公が、次第に心を閉ざしていく姿がとても印象的でした。

ここに掲載した写真や記事は、晃の園ホームページの掲示板「旬のネタ」から抜粋したものです。掲示板「旬のネタ」には現場からのニュースが随時掲載されています。ここに掲載しきれなかったニュースや話題もたくさんありますので、ぜひご覧ください。



お問い合わせは

☎ 054-270-1210

FAX 054-270-1253



インターネット ホームページ

ホームページ <http://www.surugakai.net/hikari/>

Eメール hikarinosono@surugakai.net



さわやかな風に吹かれて

今年も秋祭り

毎年夏に開催しているお祭りを今年は秋に開催してみました。秋にしては少し元気な日差しの下、時間こそ少し短めでしたが晃の園の秋祭りは盛りだくさんの出し物で元気に開催されました。

地域の皆さまと一緒に

地元団体様の出店や奈良間神楽こども会による神楽、清沢合唱団のコーラスや関連施設職員による大道芸など、地域の方々にも沢山ご協力いただきました。本当にありがとうございました。



開催時間を見直しました

今年は時間を短縮し、夕食前までの開催としました。その分じっくり腰を据えて出し物を楽しんでいらっしゃる入居者様も、多数いらっしゃった様子でした。



園からの出店も

秋らしくない少し暑いほどの陽気の中、園で用意した冷たい飲み物は喜んでいただけたようです。射的ゲームも子供たちに人気で、どの子も的を真剣に狙っていました。



今年も時代劇も登場

職員による出し物も盛りだくさん。今年なんと時代劇も登場しました。初めての試みですが、結果は大成功。派手な立ち回りに観客も拍手喝さいでした。

新しい出し物に挑戦したグループもあれば、例年の出し物にさらに磨きかけたグループもありました。職員が皆で工夫し努力して仕上げたものを、皆さんに楽しんでいただく。

出番を終えた後の職員たちの顔には、苦労して仕上げただけ満足した表情を見ることが出来ました。



初 全館合同で敬老会を開催

9月にはいり、あちこちで敬老会が開催される中、晃の園でも15日に敬老会を開催しました。今年は清響棟完成後としては初の全館合同での開催となりました。樫、新樹そして清響棟から多くの入居者様が会場にお集まりくださり、盛大にそして滞りなく式典は進行していきました。



重ねた歳の数だけ、内に積もる思い

人が大勢集まる場所で挨拶する緊張感。記念品を受け取り、あびる拍手。型どおりに進行する式典の中、それぞれのシーンで、様々な思いが交錯します。

食事に記念品に、楽しみはいろいろ

特別な日なので特別なお食事をご用意しました。手間隙かけた昼食は、雰囲気も味もとびきり豪華。特別な日の雰囲気を盛り上げていました。入居者様にお渡しする記念品も、職員が日頃の観察を通し、個々の入居者様に喜んでいただけるものをそれぞれ選ばせていただきました。



家族会では、園の沿革を初公開

午後には家族会を開催しました。今年は晃の園の沿革や活動内容など、日頃外部の方に対して発信しているような情報を、この機会に改めてご家族様に紹介させていただきました。普段は入居者様を通して晃の園を観ているご家族様にも、今回は少し違った視点からの情報発信ということもあり、新鮮に感じていただけた様子でした。

名月に想いを、団子に食欲を

秋分の日を迎えた途端に季節はその表情を秋へと変化させていました。気がつけば暦どおりの涼しい風が頬をなでています。中秋の名月を念頭に、供え物のお団子を作りました。「ちょっとあんた！これじゃ小さいよ！」「もう食べちゃいたいね」会話も弾みます。



出来上がった団子を綺麗に積み上げ飾ってみると、素敵な雰囲気になりました。とはいえ団子は食べるためのもの。名月の登場を待たずに、全部綺麗にお腹の中へと消えました。

